

学校経営方針の重点について

青梅市立友田小学校
校長 藤原輝正

一人一人が輝く、楽しい友田小学校へ向けて

1. 指導法の工夫や授業の質的向上に努め、学ぶ意欲を高めて基礎的基本的な学力の定着を図る。
2. 不登校、いじめ、荒れのない安心と信頼の学級・学年づくりを図る。
3. 保護者・地域と連携し、地域の教育力を取り入れながら教育活動の充実を図る。

そのために、次の4つの柱を立て、教育活動を充実させる。

【確かな学力の向上】

- 始業・終業のあいさつをはじめ学習規律を徹底し、落ち着いた学習環境をつくる。
- 授業時数を確保することはもとより、一単位授業の質的向上を図り、確かな学力を保障する。
（「青梅市小中学校授業指針」の活用）
- 言語活動・読書活動に力を入れ、適切な表現力を伸ばす教育活動を工夫し、授業改善を行う。
- タブレットなどICT機器の有効活用、紙とデジタルの有用性を考慮し、学習指導を充実させる。
- 家庭学習（宿題等）を毎日課すことを原則にし、がんばりカードなども活用して家庭学習の習慣化を図る。
- 昼のチャレンジタイムを有効に活用し、学習の習熟を図る。
- 教室環境・学年の掲示板、校舎内外における環境整備を図り、子供の学ぶ意欲を高める。

【豊かな心の育成】

- 校内・家庭・地域で自ら進んで気持ちの良いあいさつができるようにする。
- 「特別の教科 道徳」の授業の充実を図る。（「青梅市小中学校道徳科の授業指針」の活用）
- 丁寧で正しい言葉遣いの指導を徹底する。（T…時、P…場、O…「～にふさわしい」への意識付け）
- 子供と教師、子供同士の間人間関係を深め、安心と信頼の学級を築く。
- 子供相互の交流活動（児童会活動・学級活動・縦割り班活動など）の充実を図り、互いを思いやる心を培う。
- 生活指導目標を基に具体的に指導し、規範意識を育て、他者を大切にする心を育成し、いじめゼロを目指す。
- 清掃活動や当番活動、委員会活動などを充実させ、勤労することの大切さを体得させる。

【健やかな体の育成】

- 体育指導（運動の量・質など）を充実させ、体力向上、健康増進、運動の日常化に努める。
- 外遊びを奨励し、体育始業5分間運動・マラソン旬間・縄跳び旬間を実施し、運動に親しみ、体力を高める。
- 定期健康診断の結果や児童の実態をもとに児童及び保護者の健康管理への意識啓発に努める。

【地域と共に歩む学校づくり】

- 学校公開および学校評価の実施、学校だよりなどの各種便り、ホームページやメール配信などを適時発信し、保護者や地域との連携を深める。
- 地域人材の活用、地域の文化財や自然環境を生かした学習などを通して地域愛を育む教育（青梅学）を実践する。
- 保護者からの相談や連絡などに、いつでも丁寧に応じ、早期解決に努める。

【その他】

- 感染防止対策を継続しつつ、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて、行事や教育活動等のより良いあり方を検討し推進していく。
- 教員間の連携を密に取り、ユニバーサルデザインの視点をはじめ、特別支援教育の充実を図る。
- 校内研究、授業研修（OJT）や学び合いを通して、教員の資質や指導力向上を図る。
- 週案の作成・充実を通して、常に計画（P）・実行（D）・評価（C）・改善（A）を行い、授業の質的充実を図る。（学習指導要領の主旨である「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。）
- 「チーム友田小」として、教職員がそれぞれの持ち味を發揮し、協働して指導する。
 - ・「報・連・相」を大切に、一人一人が、責任と課題意識をもって校務分掌に取り組む。（協働、助け合い）
- 業務の見直しおよび業務の効率化など、働き方改革を推進する。